

令和元年度摂津市立味舌小学校第3回学校協議会 要点録

令和元年9月4日(水)19:00~20:35

於：味舌小学校校南棟1階学習室

記録：平野 憲昭(事務局：本校教頭)

出席委員：榎谷佳純、以登田毅、門野さとみ、吉田栄子、前田文雄、河合隆之、角田幸代

欠席委員：中居正一、小澤香織、高森佳代子

学校出席者：校長 前馬晋策、教頭 平野憲昭

1. 校長より挨拶

本日は第3回学校協議会にご出席いただきありがとうございます。

2. 報告・協議事項

(1)夏休みを振り返って

7月10日	農産物品評会（入賞はならず）
7月18日	「条里石」看板撤去
7月19日	一学期終業式
7月19日～26日	ミニ集会（校長 講師を務める）
7月31日	校内研修①（特別支援教育）
8月1日	近畿校長研修
8月6日	平和登校日
8月7日	校内研修②（国語科「書き換え学習」）
8月9日	サマーレビューヒアリング（次年度予算へ向けての校長ヒアリング）
8月15日	台風10号接近
8月18日	一中校区青指行事（飯ごうすいさんなど）
8月22日	管理職研修（特別支援教育）
8月25日	開放団体運動場清掃
8月26日	二学期始業式
8月27日～29日	水泳参観
8月27日～30日	夏休み作品展
8月28日～	足が速くなるダンス（2年生、5年生）
8月29日	連合水泳大会
8月31日	正雀たそがれコンサート
9月1日	市Pスポーツ大会

(校長) まずは、サマーレビューの内容について報告する。これは、昨年度から始まったもので、次年度の学校経営に関わり、予算を伴うものについて校長から市教委がヒアリングをするもの。昨年度のヒアリングによって今年度学校経営サポーターが配置された。来年度へ向けて、まず何が課題か、そして何が必要かを質問された。以下、私が話した内容の要旨。

1 番大きな課題は、教職員の「人材育成」。今年度学校経営サポーターとして配置されている山岡元校長が中心となって研修を行っている。経験年数別に3つのグループを作り、メンター・メンティ・コーディネーターとして、それぞれの立場で必要な研修を行っている。

次の課題は、「情報発信」。「過去」の発信ばかりではなく、「未来」のニュースを発信・提供することが必要。

また、課題として、地域との「つながりの強化」も挙げられる。さらに委員を増員したり、傍聴者を入れたりするなど、学校協議会の充実を図りたい。

最後に、「安全・安心の確保」も学校だけでなく地域全体の課題。今後、避難訓練はリアリティがさらに求められる。実際に災害が起こった時は、学校は避難所となるため、地域の方が学校に来られる。地域とともに防災・避難訓練を考えたい。

これらを進めるために、学校経営サポーターに加えて、(仮称)「つながりサポーター」を配置し、事務局の役割を担わせたい。そのことで持続可能な学校づくりを進めたい。

(委員) 取り組んだことをお知らせすることは多いが、「こんなことをするよ」という未来のニュースは少ない。3学期になってから意見を学校から上げて、来年度予算には反映されない。夏の段階で動くことは大切なことであり、実現可能なことだと思う。連携も具体的なプラン化が必要。

(委員) 地域と合同の防災訓練は、子どもが地域の防災訓練をお手伝いするというイメージなのか。他市では、防災キャンプをして、サバイバル体験をしているところもある。子どもたち向けの防災講座を開くことも考えられる。そのためには大人が世話する必要がある。200人以上の大人が参加している防災訓練に子どもが入ると考えると、地域の人と一緒にすることはなかなか難しい。

被災した時の避難所は学校。学校に集まった上で、避難所に学校になることを想定した避難訓練をすることはできるかもしれない。

(校長) イベントとしてではなく、いざ災害が起こった時に、地域全体が逃げ、避難する状況を想定した訓練が必要。例えば、川が氾濫した時には、垂直避難をするが、地域の方も来ることを考えて、児童が地域の方と一緒に屋上などに上がることを想定しておかないといけない。また、昨年6月18日の地震の際、教職員がまだ出勤できていない中で、助けていただいたのはPTA、地域の方々だった。地域の方の力が本当に頼りになる。そのためにも日頃からともに取り組み、仲良く、顔見知りになっておく必要がある。

(2)今年度の夏休みについて

(校長) 平和登校日は、授業日数にはカウントされない。そんな中で、今年度の出席率は全校で78.5%。今年度を見ると、学年が上がるにつれて出席率が下がっている。78.5%の出席率をどうとらえればよいか。

(委員) 出席しなくてもいいものであるのは市内全校同じか。自分の時は必ず出席するものだと思っていた。

(校長) 以前は夏休み期間に5年生の林間学校を実施し、その日を授業日としてカウントしていたこともあった。平和登校日のことを巡っては、議論も府内では出てきており、平和登校日を設けず、地域

で平和の集いを行っているところもあると聞いています。

水泳指導の出席率は全校平均59.6%。昨年度とほぼ同じ。昨年度と比較して、6年生の出席率が低い、連合水泳大会に向けてモチベーションを上げて欲しいと感じるところである。

働き方改革とも関連し、また、安全上の問題から、夏休みの水泳指導についても様々な意見があることは事実。

(委員) 自分は水泳を習っていたので、夏休みの暑い時にプールに入れるのでいいのではないかと思います。

頭が少し痛ければ、休ませる家庭もある。もう少し厳しく送り出してもいいのではないかととも思う。

(委員) 水泳指導は出席しないと成績に影響するのか。

(校長) 直接関係はないが、自分の目標達成のために、できるだけ出席して欲しいと考えている。

(委員) 民間のプールに行ったけど、中に入るとのぼせそうだった。水がぬるくなっている。

(校長) オーバーフローをしていることが、水温を下げることにもつながっている。

(委員) 教員は指導してくれるのか。

(校長) 一緒に入っているが、なかなかいねいな指導につながっていない場合もある。

(委員) 今、泳げない教員がいるのですか。

(校長) みんな泳げます。教員採用試験で水泳があります。

(委員) 自分が子どものころ、熱心に指導していただいた記憶が残っている。

(校長) 以前に比べると確かに水に入っている時間が短い。

(委員) 低・中・高学年と交代しながら入っているので、時間が短くなると思う。

(校長) 事故防止を考慮して、交代で入るようにしている。

(委員) 普通の登校日であつたら80%はよく来ていると言える。しかし、平和について考えるための登校だと考えれば少ない。平和について考えることをもっとアピールしてもいい。水泳の指導に6年生が6割以上来ているのは、ある意味すごいと思う。プールの水がぬるま湯のようになることもあるのは驚き。

(校長) 平和登校日に、登校していない児童がいる場合、家から出ているのに学校に到着していないのか、欠席なのかが把握できず、安全面で確認ができず心配。休みの時は家庭から連絡してもらうようにすればいいのか。水泳も時間がバラバラであり、児童の状況が把握しにくい。

(委員) アンケートをとってもいい。欠席した児童は何をしていたのか、などの情報が分かれば、あとのフォローができる。

(校長) 児童が出席したかどうか保護者がわからないという場合があるかもしれない。

(委員) 私の子どもがスイミング教室に通わず、公園で水着を濡らしてサボっていた時もあった。その場合は、スイミング教室からの連絡があつたのでわかつた。

いろいろな子どもがいる。水に顔を付けるのがこわい子どももいる。そのような子どもに対して指導方法を工夫していることはないのか。

(校長) 自分が指導していた時はメドレーを泳げることを目標にしていた。現在、学習指導要領では、クロールと平泳ぎのみを指導することになっている。また、逆飛び込みは禁止、スタート台の撤去など以前とは指導の様子も変わってきており、競技水泳ではなく、身を守るための水泳になってきている。

(委員) 自由時間があって、みんなで遊んでいた記憶がある。

(委員) もっと背泳を教えたら、水に顔を付けることができなくてもできるのではないか。

(3)本年度の運動会について

(校長) 今年度の運動会は土曜日開催に変えた。日曜日開催だと一日空くのでモチベーションを保ちづらい。また、予備日が日曜日になると見に来ていただける保護者が増えるのではないかと考えている。

本校の運動会の目標は「日頃の体育活動を通じて鍛えた体力や運動技能を発揮する」、「学級・学年間で協力し、連帯意識を高める」、「責任感を持ち、自主的に取り組み、集団としての力を高める」、「きびきびとした集団行動がとれるようにする」である。

(委員) 目標の中に「楽しく運動する」という言葉がない。

(委員) 4つ目は日本ならではのもの。

(校長) 運動会の練習期間に、しんどい、学校が嫌だという子どもが増える傾向も時には見られる。なかなか自主的に練習ができていないように思う。先生が決めたダンスを一生懸命練習することが多いが、これは自主的といえるのだろうかと感じることがよくある。練習の時に教師が厳しくしかる場面も時々見かけるが、誰のための運動会だろうか？

学習指導要領では運動会など体育的行事に関わって以下の5つの目標があるととらえている。

・健康の保持増進 ・規律ある集団行動の体得 ・運動に親しむ態度の育成 ・責任感や連帯感の涵養 ・体力の向上

この中に本校の運動会には欠けているものがあるのではないと思う。足が速くなるダンスを2年と5年で入れたのは、楽しみながら運動しようという機会を与えるためという意図もある。本校では、運動に親しむよりも規律・責任感・連帯感を強調し過ぎているようにも感じる。

(委員) ある中学校では、主体的に運動を楽しむことを重視して体育大会をしていた。運動ができる子どもだけが目立つのではなく、運動が苦手な子どもも活躍できる種目を入れるなど工夫できるのではないか。

(校長) 練習時間を短く、内容を濃いものにするように心がけている。熱中症にも注意しなければいけない。学年によって競技・演技が例年決まっていて、昨年度に負けないようにしようと、出来栄を競っていることがある。結局子どもが考える部分が少ない。

(委員) 学年の初めに走のタイムを計測しておいて、運動会前に計測したタイムの伸び率を評価すると、元からタイムが速い子だけが評価されることにはならない。

(委員) 運動会のレースは、タイム順に走っているのか。

(校長) それは学年による。タイム順だと一番速い人、一番遅い人を決めて、序列化してしまうことにもつながることもあり、配慮が必要な場面もある。

(委員) 動くこと自体が楽しいと感じるような取り組みを入れつつ、速い児童が目立つ部分もありでいいと思う。

(校長) 例えば、地区体育祭は必死に走る姿もあり、楽しめる種目もありでいいなと思っている。

(4)学校の栽培活動について

(校長) 学校で動物を飼育することが難しくなっている。土曜日が休みになり、週末の餌の問題もある。爬虫類を飼うことの制限や鳥インフルエンザの問題など悩みが大きい。

(委員) 昔は飼育係があったが今はないのか。

(校長) 飼育動物がないので、そのような係はない。また、子どもに責任を負わせることは難しい。

動物を飼えない状況の中で、植物の栽培はとても重要。稲刈りが迫ってきている。6月に田植えをしたがあつという間に成長した。校内では、鳥飼なす、カボチャ、サツマイモ、ゴーヤ、オクラなどを育てている。

稲は木下さんに世話をさせていただき、鳥飼なすは主に教職員がこの夏、水やりをしている。子ど

もが栽培に関わる時間は短い。支援学級では自立活動として、栽培して、自分たちで食べている。植物を栽培するということは道徳な観点から「生命の尊さ、自然愛護、伝統と文化の尊重」、特別活動の観点から「望ましい食習慣の形成、生産の喜びの体得」など、児童の育成につながる。しかし、自分たちでもっと関わらないと得るものがない。

(委員) 毎日の世話をするだけの余裕がない。例えば、理科の学習として毎日することはできない。

米は田植えだけして、その他の世話は任せきりになる。しかし、日々の作業が大変である。その作業を経て米を収穫できるということを子どもが知ることが必要である。

(校長) 児童に成長の変化を見せることが必要。定点観測で写真を撮り、指導者から変化を児童に問うなどして、児童の気づきを促す必要がもっとある。

(委員) 虫が気になって、田んぼに入って虫を捕りにいく子どもがいたが、最近は虫を捕りに行かない。学習田には、毎年カルガモがやってくる。

(委員) カリキュラムにあるからただやっているだけになってはいけない。

(委員) なすを育てるのも大変。水やりが重要で、質の高いなすを作るには、かなりの量の水が必要である。

(委員) これらが子どもに伝わらなかつたら結局教師が大変なだけになる。

(委員) 珍しい昆虫などを学校にもっていくことはあるのか。

(校長) 登校の際に持って来る子どもはいる。

(委員) 好きな子は好きだし、嫌いな子は嫌い。

(委員) 収穫した作物を朝市で売って、児童会で何かものを買うことはできないか。農業高校でできているからできるはず。

(校長) そのような何か楽しみがないと子どもが主体的に関わるのは難しい。

(委員) ただ栽培するだけでなく、視点を変えて、楽しみながらでないと続けるのは難しい。

(5)働き方改革の現状について

(校長) 4～8月までの各月の平均時間外業務従事時間は、教職員の全体で見ると3か月は減っており、管理職も同様である。

(委員) 6月が時間外業務従事時間は増えているが、忙しい時期なのか。

(校長) 4、5月が減ったのは、休みが多かったのも、そこまで増えなかったのではないかと。年度当初は、特に早く帰るよう声掛けもした。

(委員) かなり厳しい現状である。管理職が80時間を超えているのはいけない。仕事内容を減らすのではなく、作業効率を向上させることが働き方改革である。学校にいる時間を短くしつつ、学力を上げ、学校が楽しいと言える学校づくりをしないといけない。勤務状況は、どのように管理しているのか。

(校長) タイムカードで管理している。早く帰る日があっても、次の日に結局遅くまで残っていることもある。

(委員) 残業手当がつくような動きはないのか。

(校長) 国レベルでそのようなことを検討する動きがないこともない。現在は、4%の教員調整手当がある。

(委員) 教育委員会からの授業・学級経営に関わる仕事以外の事務作業はどれだけ多いのか。

(校長) 実際は主に管理職が事務作業を行っている。

(委員) 教諭の主な仕事内容はどのようなものですか。

(校長) 学習指導・生徒指導・研究などの多岐にわたる。一から話を進めることが多く、積み上げができ

ていないので、時間がかかってしまうことが多い。

(委員) 一斉退校日が水曜日に決まったのはなぜか。

(校長) 週の半ばであることや授業時数が短いことからとらえている。

(委員) 子どもが学校にいる時間は作業ができないので、5 時間目までの水曜日はむしろ遅くまで仕事をしたくないのではないか。金曜日の方が一斉退校日に適するのではないかと考える。

(委員) 講師は同一労働でありながら、安い賃金であることは問題なのではないか。

(委員) 管理職研修で、議会のことや予算決定の流れなど学ぶ必要があるのではないか。

(6) 次回の予定について

・報告・協議事項は次のとおり

① 行事に関わって (運動会、修学旅行、校外学習など)

② 全国学力・学習状況調査の結果及び分析について

③ 学校評価アンケートについて (昨年度の結果、今年度の内容・実施期間など)

・開催日時は、10月30日(水)19:00より。本校学習室にて。